

# 兵庫民医連 東日本大震災 対策ニュース

県連内の動き【4/7(木) 16時現在】 大震災から28日目 **第24号**

## 【法人の支援状況と動き】

### 各法人の支援状況

#### 【本日までの支援参加者数】

尼崎医(22) 共和会(27) 神戸医(16) 姫路医(4)  
クリエイト(2) 駒どり(1) はあもにい(3) ヘルス(1)  
たじま(2) 県連等(5) **合計:83名**

#### 【今後 支援予定者】

4/9~14 駒どり 2名  
4/11~17 駒どり 1名、神戸医 3名  
4/15~22 神戸医 2名  
4/16~22 姫路医 2名 共和会 2名  
4/19~25 駒どり 3名  
4/21~27 尼崎医 4名  
4/22~29 神戸医 1名  
県連 各1名 4/16~24 4/22~30

### 全国で1,614名の支援(4/6日現在)

全日本からのお願いより、現地では、物資の仕分け・地域訪問行動(片づけを手伝うこともあります)などで、**軍手や厚手のビニール長手袋(清掃用・洗い物用)が必要です。**支援に入る際はご持参ください。支援日数に応じて、余分にお持ちいただける方はぜひご準備下さい。

### 法人の動き

【本日の午後4時までに届いた各法人のニュースに基づいて掲載しています】

宮城民医連災害復興ニュースNo.25号に兵庫からの応援メッセージが掲載されています。

#### 【神戸医・駒どり】

直近の支援としては介護職2名が9日に出発します。また、第6陣支援(4名、看護2・介護1・事務1)が11日に出発。出発式は、4月11日(月)病院前駐車場でを行います。

#### 【尼崎医】

4月14日(木)18時から医療支援報告会を組合員ひろば(あおぞら会館1階)で予定。

#### 【共和会】

第6次支援チーム(4/16~、事務系2名)について最終、4/13(水)の事務長会議で確認する予定。支援者のメンタルケアについて衛生委員会での議論。千古医師が紹介した文献をもとに①チェックリストを作成、すべての支援者に提出してもらうこと、②「援助する人のセルフケア」の小冊子を読んでもらうこと、③衛生委員会より配布、回収、必要な千古医師への面談につなげていくこと、をきめた。

## 【全日本民医連】

4月7日(木)日本テレビ「ニュースZERO」(22時54分~23時58分)

特集「被災地の介護一苦闘する現場」で、松島医療生協・なるせの郷について、3日間取材したものが放映されるそうです。

### 現地レポート(尼崎医チーム)

(尼崎医対策ニュースNo.21より)

## 尼崎医療生協グループが支援に入っている

## みやぎ県南医療生協、50人の組合員の訪問・安否確認へ

宮城県に医療支援に入った尼崎医療生協グループのうち、井上亜子看護師長(萌クリニック)と吉田伸隆介護課長(ひだまりの里)、安田耕治介護福祉士(虹の会・木かげ)の3名が、みやぎ県南医療生協に支援に入り、介護施設「あおぞら」で避難者の入浴介助などに奮闘しています。同医療生協の被害状況が医療福祉生協連でも十分に把握できておらず、尼崎からの支援が最初の人的支援となりました。一略一

「デイサービスセンターあおぞら」揺れは大きかったが、職員・利用者さんとも無事で、震災当日家に戻れる状況にない利用者さん3名の臨時宿泊を受け入れ、避難所からの2名と合わせて5名が宿泊。また、柴田町からの要請で高齢者1名の臨時宿泊を16日~18日受け入れた。

23日からは、自宅で入浴のできない利用者さんの入浴サービスを実施して45名が入浴。また、大きな被害を受けた山元町の要請を受けて、入浴困難な要介護の高齢者の入浴を4月4日(6名)から通常業務終了後受け入れた。(一日2時間最大10名を予定、「あおぞら」のある柴田町から山元町までは車で片道40分の距離)震災後初めての入浴となり、大変感謝された。4日から尼崎医療生協の介護職員2名、看護師1名の支援があり、職員、ボランティアで対応、下着などの衣類も提供した。

## 組合員さんの安否

震災直後から一人暮らし等困難な状況にある組合員さんを支部役員や地域活動担当の職員が訪問、その後理事・職員を含めて電話などで安否確認を行った。更に支援を得て山元町、亘理町の安否確認を実施中。浜沿いの山元町、亘理町(写真)は大津波が押し寄せて、浜沿いは壊滅状態。多くの犠牲者と行方不明者が出ている。この地域は大きな被害にも関わらずマスコミでも殆ど報道されなかった地域で、組合員さんが50名ほど住んでおり、安否確認、訪問を行っている。



## 吉田介護福祉士からの報告

### 宮城・山元町の避難所へ組合員の安否確認へ

#### 被災者の入浴をデイで受け入れ

6日の報告をいたします。今回の支援の合間で、宮城県は七ヶ浜、菖蒲ヶ浜、荒浜、山元町坂元と被害の大きな地域は全てまわりました。この大災害は、まさに津波の被害が中心で、土地の低い地域に被害が集中しています。道を挟んで少し土地の高くなった地区はほとんど被害が出ていない状況で、浜の方を見ないと本当の被害状況は把握できません。浜の人たちは津波の怖さを把握していたので、地震が起こって直ぐに逃げて助かった方も多いと聞きますが、逆に少し離れて今まで津波の来たことのない地域の方の多くが逃げ遅れたようです。次に地震がおこったら倒壊の危険性がある建物は赤紙が、半壊は黄紙が貼られています。—略—



#### 現地レポート (たじま医) (たじま医対策ニュースNo.3より) 和田事務からの報告より

5日長町病院の倉庫から津波で流されたカルテの捜索をしてきました。宮城県の厚生局の指示があり、約10万枚の患者カルテ・レントゲンフィルムの流失の地域の範囲を特定ため、支援のメンバーと長町病院の職員さん2人を含めて10人で行いました。—略—

6日は長町病院周辺の地域の訪問活動でした。友の会の会員だけでなく地域のすべての住宅を地図で6組15人で6ブロックに分けて訪問しました。必ずどのグループにも看護師が加わるように編成して、「震災後、体の不調はないか、生活で困ったことはないか？」などを聞いてまわり手当てなどが必要な場合はその場で処置し、病院で対応が必要な人は病院に連絡する、また困りごとや悩みを聞くことでした。小西さんも私とは別グループでしたが2日目も元気でまわっていました。地震の被害は当然なのですが、津波の被害は、あるところとないところではその差は極端で、津波から逃れているかどうかが生きているか生きていないかどうかということで、そこが阪神大震災との違いのようです。詳しくは、帰ってから報告します。

#### 現地レポート (共和会チーム) (共和会対策ニュースNo.19より) 福岡氏のメールより

4/5(火)22:09。お疲れ様ですm(\_ \_)m本日の福岡の行動報告をさせていただきます。午前坂総合病院の糖尿病外来で問診を取りました。家は無事で自宅におられる方がほとんどでしたが、食生活が不規則でカロリーオーバーで体重が増加している方が多かったです。支援物資に慣れてしまっていて野菜が手に入るようになって料理する気が起きないと話される主婦の方もおられました。また、精神的な不安感が血糖コントロールに悪影響を及ぼしている方もおられ、メンタルケアも同時に行う必要性を感じました。午後は地域訪問に行ってきた。新入職員のオリエンテーションの中で地域訪問活動があり、新人の看護師さんと一緒に組合員さんのお宅を訪問しました。その地域は閑静な住宅地で床上浸水をしており1階部分はほとんど使用できない状態で2階部分で生活されている方がほとんどでした。一生懸命片づけをされており、手が荒れておられる方が多く、ゴム手袋をお渡しするととても喜んでくださいました。日に日に状況が変化するニーズをどう把握するか、難しいことですがとても大事なことだと痛感しました。それにはやはり、自分の足で見て感じる事が大切であることも痛感しました。今日一緒に同行した新人看護師さんたちとのご縁もよい思い出になりました。

### 法人別義捐金集約 (4/7 現在) 20,102,620円

尼崎医グループ	5,445,382円	たじま医	614,459円
共和会グループ	6,761,523円	駒どり	1,642,340円
神戸医グループ	3,212,270円	はあもにい	95,090円
宝塚グループ	602,762円	県連・兵医協	441,000円
姫路医	1,287,794円	合計	20,102,620円